

## 第1回 武蔵野市生涯学習計画策定委員会 議事録

日 時 平成31年4月11日（木）17時30分～19時30分  
会 場 武蔵野市役所411会議室  
出席者 板垣文彦委員、宇佐見義尚委員◎、北村淳子委員、嶋田晶子委員、助友裕子委員、  
白田紀子委員、花田吉隆委員、牧野篤委員○、松村勝人委員、斉藤愛嗣委員、  
福島文昭委員  
◎委員長、○副委員長

資 料 資料1 武蔵野市生涯学習計画策定委員会 委員名簿  
資料2 武蔵野市生涯学習計画策定委員会 設置要綱  
資料3 基本計画検討スケジュール及び審議内容  
資料4 パワーポイント資料

### 次 第

#### 1 委嘱式

教育長より、策定委員の委嘱を行った。

#### 2 教育長挨拶

教育長より、武蔵野市生涯学習計画策定委員会の開会にあたり挨拶を行った。要点は以下の通り。

- ・現在、武蔵野市は長期計画の策定作業中である。教育に関連した計画も多数策定しており、その中での生涯学習計画の策定となる。
- ・人生100年時代やAI、Society5.0等の社会情勢も踏まえながら、理念を検討いただきたい。
- ・教育委員会としての課題認識は次回以降に紹介したい。スケジュールは厳しいが、よい計画になることを期待している。

#### 3 策定委員自己紹介・事務局紹介

策定委員から自己紹介をいただいた。また、事務局関係者を紹介した。

#### 4 委員長・副委員長選出

策定委員の互選により、委員長に宇佐見委員が選出された。宇佐見委員長の指名により、牧野委員が副委員長に選出された。

#### 5 委員会の運営

事務局より、資料3を用いて委員会の運営について説明を行った。議事録について、発言者の氏名は委員長、副委員長、委員、事務局と記載することとし、議事要録を作成するもの

と決定された。

## 6 生涯学習の定義

事務局より、資料4を用いて、現行の武蔵野市生涯学習計画における生涯学習の定義について説明した。要点は以下の通り。

- ・現在の計画においては、自主的な学習や偶発的な学習を除き、社会教育、家庭教育、学校教育、民間による教育活動を取り扱う範囲としている。
- ・ただし、学校教育には個別計画があり、民間による教育活動は行政が連携できる範囲を計画の対象としている。

## 7 計画策定の背景・目的

事務局より、資料4を用いて、武蔵野市生涯学習計画を策定する背景・目的について説明した。要点は以下の通り。

- ・現在の計画は、市の行う生涯学習事業を取りまとめ、計画的に推進するために策定している。
- ・計画改定は、現在の計画が期間終了を迎えることによる。

## 8 今後のスケジュール

事務局より、資料4を用いて、計画策定のスケジュールについて説明した。

- ・5月の教育委員との懇談の内容は、①生涯学習による人と人とのつながり、地域とのつながりについて、②生涯学習の機会の拡充について、③生涯学習におけるそれぞれの主体の役割について、を予定している。

## 9 計画策定にあたっての前提

事務局より、資料4を用いて、武蔵野市生涯学習計画の概要、国の政策動向、武蔵野市の上位計画等について説明した。要点は以下の通り。

- ・武蔵野市生涯学習計画については、課題認識、基本目標、役割、6つの目標と関連する市の計画について説明した。
- ・国の政策動向としては、「第3期教育振興基本計画」、「障害者の生涯学習の推進方策」、「人づくり革命基本構想」、「学習指導要領」、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」を取り上げた。
- ・武蔵野市の上位計画としては、第六期武蔵野市長期計画（討議要綱）、武蔵野市公共施設等総合管理計画を取り上げた。

## 10 平成30年度に実施した「生涯学習に関する調査」

事務局より、資料4を用いて、現行の武蔵野市生涯学習計画における生涯学習の定義について説明した。要点は以下の通り。

- ・現在の計画に対する評価に関する結果として、「学びの成果の共有」、「市民文化の発信」

に係る取り組みを実感している人の割合が少ないことを報告した。

- ・調査結果から得られる3つのポイントとして、「学びと人と人とのつながり」、「市民が求める学びの機会」、「学ぶために必要なこと」を報告した。
- ・その他、社会教育団体の課題及び市との協働意向と、市民による施設利用の実態について報告した。

## 11 意見交換

- 委員長 現在の計画はよくできていると認識している。ただ、策定から10年が経つ中で時代も変わり、新しい社会的課題が山積しているため、議論する必要がある。その上で必要だと思う資料について要望をいただきたい。
- 事務局 武蔵野公会堂は文化施設に該当する。同計画では分野ごとに施設を分類している。生涯学習施設は図書館、市民会館、武蔵野ふるさと歴史館、武蔵野プレイスの4つで、市民文化会館と公会堂は文化施設として位置づけている。
- 委員 生涯学習施設は市の西側に多いと感じている。市民生活の重点がどちらかという東側にある中で立地が偏っているため、多くの市民は知らないのが現状なのではないか。
- 委員長 施設の立地は土地の都合もあるので難しいだろう。
- 委員 武蔵野市には独自のコミュニティセンターがある。コミュニティセンターや市民活動、市民自治をどのように位置づけるのかによって計画の考え方も変わるのではないか。市民活動は根強くあると思うので、市に登録している団体だけが生涯学習活動の主体ではないと思う。
- 委員長 この件は議題になると思う。
- 委員 生涯学習計画の前提条件として公共施設等総合管理計画を取り上げた意図を事務局から説明いただきたい。
- 事務局 公共施設等総合管理計画は、市が保有する公共施設の今後の更新等に関する考え方（総論）を示しているが、個別の施設については施設を所管する担当課が検討し、類型別施設管理計画を策定することとなっている。その検討を本委員会で行っていただき、生涯学習計画に類型別施設管理計画の内容を盛り込みたいと考えている。
- 委員 議論にあたっては、武蔵野市らしい視点に立って計画を考える必要がある。そのためには、市民ニーズや市の現状を把握することが必要である。また、市における生涯学習の機会について、現状とその改善方策についても説明いただきたい。
- 計画策定にあたって、市長・副市長や議会に対する説明をどのように行うかを知りたい。特に市長・副市長に関しては、適切な段階で適宜説明していただき、考え方をすり合わせておいていただきたい。

- 委員 教育委員会が所管する計画であるため、教育長への説明はもちろん行うが、市長・副市長への説明も適宜行う予定だ。ご指摘の通り、早い段階から説明を行うように考えている。議会に対しては庁内にルールがあり、中間まとめの段階で報告するようになっている。
- 委員長 第2回策定委員会の前に予定されている教育委員との懇談において、教育委員会としての考えが示されるのだろう。
- 委員 健康増進計画の策定に関わってきたなかで、教育的な取り組みは庁内の各部署で行われていることに気付き、教育委員会で行う生涯学習事業は何かを考えさせられている。教育委員会以外でも生涯学習的な事業が行われていると思うので、生涯学習計画との関係を整理した方がよい。その中で生涯学習計画の意義が明確になると思う。
- 委員長 事務局からの報告でも社会教育と生涯学習という言葉が混在していた。何が違うのか整理した方がよい。自分としては、社会教育は社会性が伴うものであり、生涯学習は個人のもので、どこか社会的な視点が抜けているようにも思う。
- 委員 まずは武蔵野市の人口動態に関する情報も提供いただきたい。生涯学習事業の所管を考えるととも関わるからだ。「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」では、社会教育施設を一般行政に移管してもよいと書かれている。従来縦割りの行政では、人口減少や財政難のなかで生涯学習を担い切れないという事情が背景にあると認識している。武蔵野市は財政的には豊かだと思うが、そのような背景についてどのように捉えるのかが気になっている。10年後の財政状況の予測も含めて検討する必要があると考える。
- 委員長 時代が変化していく中で10年後を予測できるのかということも気になる。
- 委員 長期計画が5年を目途に見直されているなか、生涯学習計画が10年間という計画期間であることは整合しないと思う。
- 委員 図書館や文化財も含め、市長部局での所管が可能となっている。現在、長期計画の策定作業中だが、策定後には組織体制を考える機会もあると思う。そのとき生涯学習部門のあり方や文化施策との関係については課題になるだろう。子どもの生涯学習と学校教育との関係を考えて、教育委員会が所管すべきなのか、もしくは他の部署との連携を考える上で市長部局の方がよいのかも本委員会の論点になると考える。
- 委員 博物館は文化庁に移管されており、統合は進んでいる。このことを基礎自治体でどのように受け止めるかは議論していければよいと考える。
- 委員 人口動態については、人生100年時代という考え方があるので、定年後の年代に特化して捉えた方がよい。また、若い世代に関して、母親が学ぶにあたっての子育て支援の環境が気になる。くわえて、所得水準や学歴等の基礎的なデータも提供いただきたい。
- 委員長 昨年度に行った市民意識調査でも様々な項目を取り扱ったところだが、さらに

調べるべきか検討を要すると考える。近年、子どもの貧困も課題視されており、様々な視点で検討したい。

委員 所得については、学校教育計画の策定に際して保護者の所得を把握しているの  
で、その情報を提供できるかと思う。また、長期計画の討議要綱でも人口推計  
を記載しているので参照いただきたい。

委員 様々な論点があると思うが、收拾がつかなくなることを避けるためにも、新し  
い学びは何を解決するものなのかを考えるとよいのではないか。貧困を解決す  
る学びとは何か等、テーマを掲げてよいのではないか。また、人生100年時代  
の学び直しのための仕組みは何か等も考えられる。人と交わることが学びだ  
と思うが、「学び」を定義する言葉が必要であると考ええる。

委員 今回の調査での評価結果が、現在の施策体系のどの部分に該当するのかが分か  
りにくいと感じている。施策体系のどの部分が十分でなかったかが分かれば、  
改善すべき点が明確になるのではないか。その作業をお願いしたい。

委員長 現在の計画は十分な内容だと考えるが、批判的に検証し、時代にあった改定を  
加えることが大事だろう。  
学校教育の立場からみて、何か意見はあるか。

委員 学校においても「市民科」に向けた取り組みが、総合学習を中心として具体化  
してきている。その取組と生涯学習計画とのつながりが整理されるとよい。現  
在の計画の役割や6つの目標を、新しい計画にどのように継承し、新しい体系  
をつくるのかを示した方が、議論が散漫にならないのではないか。

委員長 NPO法人として活動されている委員はいかがか。

委員 社会状況と社会教育は密接に関係していると考えている。自分たちは自然体験  
が少ないから機会提供をしている。貧困層にくわえて、ひきこもりも幅広い世  
代で問題になっている中、社会教育を通じて外出を促すような取り組みも考え  
られるのではないか。

委員 定年を過ぎた男性の社会参画を検討する必要があると感じる。若い男性はつながりが  
あり、特に子育て世代は強い関係が見られる。一方、仕事でキャリアを築いた  
後に定年された人たちがどのように地域と関係していくのか。自分から社会参  
画できる人はよいが、そうでない人にとってのきっかけが難しいと感じている。

委員 市が提供する生涯学習機会は高齢者向けのものが多く、恵まれてはいるが、高  
齢者に対しての情報提供が共有されていないのではないか。

経済的な余裕がある高齢者が多いので、個々人で学ぶこともできると思う。そ  
れを踏まえれば、行政として学ぶ機会を提供する目的を明確にするべきだと思  
う。目的がないと生涯学習の定義はできなのではないか。行政が与える生涯学  
習のメニュー提供だけでなく、もっと市民を自立させてもよいのではないか。  
場所・お金・情報・人でいうと、人にあたるコーディネータを育てるという考  
え方があってもよいのではないか。市民活動やボランティア活動を重視した方  
がよいと思う。

- 委員 いままでの意見を聞くと、生涯学習は様々なテーマが関わる上に、いずれも重要だと感じる。議論のテーマを整理した方がよい。また、計画としてまとめる際には行政的な文章ではなく、「立体的な報告書」になればよいと思う。
- 委員長 今回は様々な論点が提起されたが、議事録として整備し、次回テーマ設定を行いたい。最後に発言されていない委員から意見をいただきたい。
- 委員 現在の計画における生涯学習の定義では、自己学習活動を対象外としていることは残念だと感じる。武蔵野プレイスは市民が自ら気づき、活動する支援を行うことを理念としている。それを踏まえると、新しい計画では、自己学習や偶発的学習を支援することを取り込んでもよいのではないか。

以上